

第 26 回太宰府市まちづくり市民会議幹事会

平成 25 年 5 月 15 日 (水) 19:00～

於 市役所 4 階 403 会議室

出席者：原田・大藤・中島・大森・笠利・古賀・平嶋・船越・前田・御笹・山崎

欠席者：

1. 開会 (19時～)

2. 盛り込むべき内容について (19時05分～)

3. 次回の市民会議について (19時30分～)

4. その他 (20時50分)

次回幹事会 平成25年 月 日 () 19時～ 会議室

幹事会の記録_盛り込むべき内容について

①誰が盛り込むべき内容のたたき台を作るのか？

→複数の案が出されたが、結論は得ていない

(読替え作業を試行して得られた感想)

- ・意見を言いたくて参加している人や、充て職で来ている人(自治会長等)などの興味を引くのは、グループで進行する立場として難しかった
→3つの班から「グループ作業ではない」という意見があがっている
→市民会議において、今回のやり方は受け入れられないようだ
- ・チームに分けて作業をしても審議会へあげる8月の予定は数ヶ月延びる
- ・このやり方で市民会議をやっているのは、審議会とのやりとりもあるので、間に合わない
→一番早いのは一人ないしは二人でたたき台をつくり、確認作業をするやり方だろう
たたき台を示し、ニュアンスの違いや抜け落ちている言葉を補足するなどのやり方だと、参加者は意見が出しやすいのではないか
- ・読み替えると、具体的な内容・項目は薄まっていく
- ・盛り込むべき内容にそぐわないものもある
- ・条項に合っていない振分けがある

(誰が盛り込むべき内容のたたき台を作るのか)

- ・複数の案が出された
 - A. (市民会議で一緒に作成)「読み替え作業・不足分検討・スケジュール」の3つの部会に分かれて議論を進める。この内の「読替え作業部会」を作る
 - B. (市民会議で一緒に作成)参加者全体をチームに分けて固定し、それぞれのチームに条項を割り振り、議論して作る。なお、各班には幹事会が入り、記録する
 - C. (幹事会で作成)誰か一人ないしは二人で作る
 - D. (幹事会で作成)幹事会全員に条項を割り振り、それぞれが担当する箇所を作る。なお、人手が足りないなら、市民会議に作業への参加を呼びかける

(やり方を決める判断基準は?)

- ・「準備にかかる作業量」より、「市民会議のスムーズな運営」や「参加者の満足感」を優先して判断すべきではないか。(十時談)

②誰が「条例素案」を作るか？

→結論は得ていない

- ・嶋田先生より「条例素案については、当初は、市民会議で作るということではなかったか？」との返事があったことが報告された

③嶋田先生テキストの19項目と照合し、不足する項目をどうするか？

→結論は得ていない

- ・条項への振分け結果を読んでいくと、嶋田先生テキストの19項目と照合して不足するものが見えてくる。読み込み、整理するのは幹事会の役割ではないか(中島談)